

スポーツイベントに関する研究 (2)

—参加者の場合—

堺 賢 治¹⁾

A Study on Sport Event (2)

—The Case of Event Participants—

Kenji Sakai¹⁾

Key words : Sport Event, Triathlon,
Event Participants

キーワード：スポーツイベント トライアスロン
参加者

第二に、イベント参加者を参加目的から「勝利志向」と「完走志向」に分け、参加者のニーズを把握することを目的にした。

I. 序 論

1980年代の後半から日本各地において、町おこし・村おこし的手段として盛んになったイベントは、二つの機能を持っている。一つは農村の経済的基盤を確立する「地域振興」の機能、もう一つは農村のコミュニティづくりを進める「住民の郷土意識の高揚」の機能である¹⁾。

このイベントも多くの市町村において仕掛人の手によって企画されてきた。その中でも、余暇の有効な利用や健康・体力づくりの手段としてのスポーツイベントは人気を博してきた。

スポーツイベントを開催するにあたって、参加者の特性やニーズを把握することはスポーツイベントを成功させるために大切なことである。スポーツイベントの参加者に関する研究はされているが^{2) 3) 4)}、どちらかという、参加者の多い、大きなスポーツイベントに関するものがほとんどであり、日本のどこでもあるような小さな町村のスポーツイベントに関するものは少ないといえる。

そこで、本研究は、農村におけるスポーツイベントとして人口8000人の小さな町（愛媛県温泉郡中島町）で開催されている「トライアスロン中島大会」に焦点を合わせ、第一に、イベント参加者の実態を把握し、

II. 研究 方 法

調査対象：第11回トライアスロン中島大会に参加した選手153名

調査時期：1996年8月25日

調査方法：質問紙による配票調査

回収率：有効回収数143名 有効回収率93.5%

表1 参加目標

項 目	N	%
勝つことを目指して参加した	10	7.0
どちらかといえば勝つことを目指して参加した	30	21.0
どちらかといえば完走することを目指して参加した	54	37.7
完走することを目指して参加した	49	34.3

分析の視点

表1は第11回トライアスロン中島大会に参加している選手を参加目標で分類したものである。「勝つことを目指して参加した」と「どちらかといえば勝つことを目指して参加した」をA群：勝利志向群（N=40）とし、「どちらかといえば完走すること

1) 愛媛大学教育学部
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

1. Faculty of Education, Ehime University,
Bunkyo-cho, 3, Matsuyama-shi, Ehime, 〒790-8577,
Japan

を目指して参加した」と「完走することを目指して参加した」をB群：完走志向群（N=103）とした。

Ⅲ. 結果及び考察

1. 属性

(1) 性別

表2 性別 (%)

項目	A 群	B 群	全体
男性	95.0	78.6	83.2
女性	5.0	21.4	16.8

表2は性別を示したものである。全体では、男性が83.2%、女性が16.8%と男性の方がよく参加している。

両群を比較すると、全体の比率に比べて、A群では男性の比率が高く、B群では女性の比率が高く、男性の方に勝利志向が強いといえる。

(2) 年齢

表3 年齢 (%)

項目	A 群	B 群	全体
20歳未満	0.0	1.0	0.7
20歳代	37.5	27.2	30.1
30歳代	45.0	27.2	32.1
40歳代	7.5	28.1	22.4
50歳代	7.5	13.6	11.9
60歳代	2.5	2.9	2.8

表3は年齢を示したものである。全体では、30歳代32.1%、20歳代30.1%、40歳代22.4%の順であり、20歳代から40歳代で約85%も占め、参加選手の年齢構成をみても幅のあるスポーツであるといえる。

両群を比較すると、A群では、20歳代と30歳代が多いのに対し、B群では、40歳代と50歳代が多い。トライアスロンに参加して、歳を取るに従って体力が低下し、そのために勝利志向から完走志向への変化がみられる。

(3) 職業

表4 職業 (%)

項目	A 群	B 群	全体
農業・漁業	0.0	1.0	0.7
学生	2.5	2.9	2.8
自営業	17.5	8.7	11.2
自由業	7.5	3.9	4.7
技能・労務職	20.0	17.5	18.2
専門・技術的職業	42.5	48.6	46.8
主婦	2.5	2.9	2.8
無職	2.5	1.9	2.1
その他	5.0	10.7	9.1

表4は職業を示したものである。全体では、「専門・技術的職業」が46.8%と半数近くを占め、次いで「技能・労務職」の18.2%、「自営業」の11.2%の順である。一般的に言えば、週休2日制の職業に従事し、余暇の取れる人々の参加が多いといえる。

両群を比較すると、差はみられない。

(4) 居住地

表5 居住地 (%)

項目	A 群	B 群	全体
中島町	2.5	2.9	2.8
中島町を除く愛媛県内	55.0	62.1	60.1
愛媛県を除く四国内	15.0	11.7	12.6
四国以外	27.5	23.3	24.5

表5は参加者の居住地を示したものである。全体では、「中島町を除く愛媛県内」が60.1%と最も多く、次いで「四国以外」の24.5%、「愛媛県を除く四国」の12.6%であり、「中島町」は2.8%と少ない。参加者は愛媛県内が多く、全国からの参加者は少ないといえる。

両群を比較すると、差はみられない。

2. トライアスロンについて

(1) トライアスロン歴

表6 トライアスロン歴 (%)

項目	A 群	B 群	全体
1年未満	5.0	22.3	17.5
1～3年未満	12.5	29.1	24.4
3～5年未満	32.5	14.6	19.6
5～10年未満	25.0	19.4	21.0
10年以上	25.0	14.6	17.5

表6は参加者のトライアスロン歴をあらわしたものである。全体では、「3年未満」と回答した者が41.9%も占めトライアスロンを初めてあまりたない人が多い。トライアスロンの始まりは、1977年、アメリカのハワイ州で開催されたものであり、トライアスロンの歴史そのものがないためにこのような結果になったものと思われる。

両群を比較すると、A群では「5年以上」と答えた者が5割いるのに対し、B群では「3年未満」と答えた者が5割を越えている。このことは初め完走志向から始めた人が、続けていくうちに勝利志向に変わっていくことがわかる。しかしながら、勝利志向の者は若い人に多いことや40歳代以上の人は完走志向が多いことから、年輩の人はトライアスロン歴が長くてもは勝利志向になりに

くいことがわかる。

(2) 練習頻度

表7 練習頻度 (%)

項目	A 群	B 群	全体
100日未満	5.0	23.4	18.2
100~200日未満	20.0	39.7	34.2
200~300日未満	40.0	19.4	25.2
300日以上	35.0	12.6	18.9
無回答	0.0	4.9	3.5

表7は1年間にどの程度トライアスロンのために練習をしたかをたずねたものである。全体では、「100~200日未満」と答えた者が34.2%と最も多く、次いで、「200~300日未満」の25.2%、「300日以上」の18.9%、「100日未満」の18.2%と続いている。5割以上の者は「200日未満」の練習だけでトライアスロンに参加しており、比較的参加しやすい大会であるといえる。(中島大会はスイム1.5km, バイク40.0km, ラン10.0kmである。)

両群を比較すると、「200日以上」練習している者は、A群では75.0%の者が練習しているのに対し、B群では32.0%の者しか練習していない。勝利志向の人はチャンピオンを目指しているために練習回数が増加してくる傾向がみられる。反対に、B群では「100日未満」の者が23.4%もあり、完走すればよいという楽な気持ちで参加している人が多いことがわかる。

(3) 中島大会以外の参加状況

表8 中島大会以外の参加状況 (%)

項目	A 群	B 群	全体
ある	82.5	52.4	60.8
ない	17.5	47.6	39.2

中島大会以外のトライアスロン大会に参加しているかをたずねたものが表8である。全体では、60.8%の者が大会に参加している。

両群を比較すると、A群の者は82.5%が参加しているのに対し、B群の者は52.4%しか参加していない。勝利志向の人は色々な大会に参加することによって勝利志向を高めているといえる。一方、完走志向の人は中島大会だけ参加している人が約半数もあり、最初の参加は完走志向から始まることを物語っているといえる。

3. トライアスロン中島大会

(1) 参加回数

表9はトライアスロン中島大会の参加回数をた

表9 参加回数 (%)

項目	A 群	B 群	全体
初めて	20.0	34.0	30.1
2~3回	35.0	35.9	35.6
4~5回	20.0	11.7	14.0
6~10回	17.5	16.5	16.8
11回	7.5	1.9	3.5

ずねたものである。全体では、「2~3回目」が35.6%と最も多く、次いで「初めて」の30.1%である。参加者の約7割の人はリピーターであり、参加希望者500人の中から350人を選ぶことを考えると、リピーターになる人が多いことは、この大会に高い評価を参加者は与えているのではないかと推察される。

両群を比較すると、「4回以上」はA群に多く、勝利志向の人の方が参加回数が多い。一方、「初めて」はB群に多く、完走志向の人はこの大会が参加しやすいために多いのではないかと思われる。

(2) 参加理由

表10 参加理由 (%)

項目	A 群	B 群	全体
自分の実力を試したい	50.0	22.3	30.1
体力づくりのため	25.0	25.2	25.2
トライアスロンへの興味	7.5	23.3	18.9
友人に誘われて	7.5	10.7	9.8
ホームステイでの関り	5.0	2.9	3.5
選手間での関り	2.5	3.9	3.5
その他	2.5	11.7	9.0

表10は参加理由をあらわしたものである。全体では、「自分の実力を試したい」が30.1%と最も多く、次いで「体力づくり」の25.2%、「トライアスロンへの興味」の18.9%と続いている。トライアスロンに参加する人は自己実現や体力づくりのためにチャレンジしていることがわかる。

両群を比較すると、A群では「自分の実力を試したい」と回答した人が50.0%と多く、B群よりもより多くの練習をし、少しでも良いタイムを出し、順位を上げるために努力している。一方、B群では「トライアスロンへの興味」と回答した人が23.3%と2番目に多く、トライアスロンの特性である完走することによって、順位はともかく感動を得ることからこのような結果が出たものと思われる。

(3) 良かったこと

表11 良かったこと (%)

項目	A群	B群	全体
中島町の良さがわかった	22.5	18.5	19.5
選手間での仲間が増えた	27.5	15.5	18.9
地域の人との交流が出来た	25.0	16.5	18.9
完走できた	2.5	18.5	14.0
トライアスロンが好きになった	0.0	12.6	9.1
タイムがのびた	15.0	5.8	8.4
スポーツの楽しさを知った	2.5	8.7	7.0
その他	5.0	3.9	4.2

表11は参加して良かったことを示したものである。全体では、「中島町の良さがわかった」19.5%、「選手間で仲間が増えた」と「地域の人との交流が出来た」18.9%、「完走できた」14.0%の順に続いている。参加者は中島町の住民の温かきもてなしに良さを感じたり、選手同士や地域の人との交流に良さを感じている。

両群を比較すると、A群では「選手間での仲間が増えた」「地域の人との交流が出来た」「タイムがのびた」ことに良さを感じている人が多い。A群の者はこの大会によく参加していることから選手間や地域の人との交流を高く評価し、また、勝利志向が強いことがタイムがのびたことに意味を感じているのではなかろうか。一方、B群では「完走できた」「トライアスロンが好きになった」に良さを感じている人が多い。B群の者はトライアスロン経験が少なく、完走することによる感動に良かったことを感じているためにこのような結果になったのではないかと推察される。

(4) 評価

① 宿泊

トライアスロン中島大会における参加者は、ほとんどの人が一泊の宿泊であり、宿泊先は、民宿が54.2%と最も多く、次いでホームステイの26.6%、旅館の9.1%と続いている。中島町は宿泊施設が少ないために参加者の定員を350名に制限している。

参加者の宿泊に関する評価をたずねたものが表12(食事)、表13(宿泊料金)、表14(宿泊先の人の対応)である。食事については、「大変満足」と答えた者は60.1%もあり、「やや満足」と答えた者を合わせると96.2%の人が満足している。宿泊料金については、「大変満足」と答えた者は66.9%もあり、「やや満足」と答えた者を合わせると94.7%の人が満足している。宿泊先の人の対応については、「大変満

足」と答えた者は73.7%もあり、「やや満足」と答えた者を合わせると93.2%の人が満足している。

表12 食事 (%)

項目	A群	B群	全体
大変満足	54.1	62.5	60.1
やや満足	43.2	33.3	36.1
やや物足りない	0.0	4.2	3.0
物足りない	2.7	0.0	0.8

表13 宿泊料金 (%)

項目	A群	B群	全体
大変満足	62.2	68.7	66.9
やや満足	32.4	26.1	27.8
やや物足りない	2.7	5.2	4.5
物足りない	2.7	0.0	0.8

表14 宿泊先の人の対応 (%)

項目	A群	B群	全体
大変満足	70.0	61.2	63.6
やや満足	27.5	32.0	30.8
やや物足りない	2.5	5.8	4.9
物足りない	0.0	1.0	0.7

食事、宿泊料金、宿泊先の人の対応、どれをとっても宿泊に関する参加選手の評価は非常に高く、これは田舎のスポーツイベントとして中島町民が親切な対応をしていることがわかる。

両群を比較すると、「宿泊先の人の対応」においてA群の方がやや高いのは、A群の者はリピーターが多く、宿泊先の人をよく知っているのではなかろうか。

② 地域活性化

中島町の地域活性化についてたずねたものが表15～表19である。全体では、「全くその通りだと思う」と答えた人の割合は、「知名度はあがった」では63.6%、「地域の人活気づいた」では43.4%、「地域住民同士のコミュニケーションが深まった」では41.4%、「過疎化の歯止めにつながった」では12.1%、「経済的に豊かになった」では6.3%である。また「どちらかといえばそう思う」と答えた人を加えると、「知名度はあがった」では94.4%、「地域の人活気づいた」では88.1%、「地域住民同士のコミュニケーションが深まった」では86.5%、「過疎化の歯止めにつながった」では58.9%、「経済的に豊かになった」では47.6%である。

表15 知名度は上がった (%)

項目	A群	B群	全体
全くその通りだと思う	70.0	61.2	63.6
どちらかといえばそう思う	27.5	32.0	30.8
どちらかといえばそう思わない	2.5	5.8	4.9
全くそう思わない	0.0	1.0	0.7

表16 地域の人が活気づいた (%)

項目	A群	B群	全体
全くその通りだと思う	35.0	46.6	43.3
どちらかといえばそう思う	47.5	43.7	44.8
どちらかといえばそう思わない	17.5	9.7	11.9
全くそう思わない	0.0	0.0	0.0

表17 地域住民同士のコミュニケーションが深まった (%)

項目	A群	B群	全体
全くその通りだと思う	35.0	44.0	41.4
どちらかといえばそう思う	50.0	43.0	45.1
どちらかといえばそう思わない	10.0	13.0	12.1
全くそう思わない	5.0	0.0	1.4

表18 過疎化の歯止めにつながった (%)

項目	A群	B群	全体
全くその通りだと思う	2.5	15.8	12.1
どちらかといえばそう思う	47.5	46.6	46.8
どちらかといえばそう思わない	40.0	29.7	32.6
全くそう思わない	10.0	7.9	8.5

表19 経済的に豊かになった (%)

項目	A群	B群	全体
全くその通りだと思う	2.5	7.8	6.3
どちらかといえばそう思う	50.0	37.8	41.3
どちらかといえばそう思わない	37.5	44.7	42.6
全くそう思わない	10.0	9.7	9.8

「知名度はあがった」に高い評価をしているのは、トライアスロン中島大会が毎回テレビ放映されるので有名になったのではなからうか。次いで、高い評価をしている「地域の人が活気づいた」と「地域住民同士のコミュニケーションが深まった」はイベントのもつ機能の一つである農村のコミュニティづくりを進める「住民の郷土意識の高揚」に寄与しているものと思われる。「過疎化の歯止めになった」と「経済的に豊かになった」が低い評価になったのは、イベントのもつ二つめの機能である農村の経済的な基盤を確立する「地域振興」の面にそれほど寄与していないものと思われる。しかしながら、「スポーツイベントに関する研究-ボラン

ティアの場合」⁵⁾のボランティアの人による評価に比べると、参加者の方が高い評価をしているといえる。特に「地域振興」に関して地元ボランティアはほとんど評価していないのに、参加者の評価が高いのは、そうあって欲しいという気持ちが評価を高めているのではあるまいか。

両群を比較すると、A群では、「知名度は上がった」に評価が高いのに対し、B群では、「過疎化の歯止めになった」「地域の人が活気づいた」「地域住民同士のコミュニケーションが深まった」に評価が高い。全般的にいて、B群の方が高い評価をしている理由は、B群の者は年齢の高い人が多く、トライアスロンによる効果をマクロな立場からみているのではなからうか。

③ 交 流

表20 選手間の交流 (%)

項目	A群	B群	全体
良くできたと思う	60.0	48.5	51.7
まあ良くできたと思う	37.5	42.7	41.3
あまりできなかったと思う	2.5	7.8	6.3
できなかったと思う	0.0	1.0	0.7

表21 宿泊先の人との交流 (%)

項目	A群	B群	全体
良くできたと思う	41.0	44.4	43.6
まあ良くできたと思う	43.6	29.3	33.3
あまりできなかったと思う	10.3	18.2	15.9
できなかったと思う	5.1	8.1	7.2

表22 ボランティアの人との交流 (%)

項目	A群	B群	全体
良くできたと思う	37.5	35.0	35.7
まあ良くできたと思う	40.0	41.7	41.2
あまりできなかったと思う	20.0	22.3	21.7
できなかったと思う	2.5	1.0	1.4

表23 地域の人との交流 (%)

項目	A群	B群	全体
良くできたと思う	27.5	27.2	27.3
まあ良くできたと思う	47.5	40.8	42.6
あまりできなかったと思う	22.5	25.2	24.5
できなかったと思う	2.5	6.8	5.6

表20～表23は参加者がどの程度の交流をしたのかをたずねたものである。「良くできたと思う」と答えた人の割合は、「選手間の交流」では51.7%、「宿泊先の人との交流」では43.6%、

「ボランティアとの交流」では35.7%、「地域の人との交流」では27.3%である。また、「まあまあ出来たと思う」と答えた人を加えると、「選手間の交流」では93.0%、「宿泊先の人との交流」では76.9%、「ボランティアとの交流」では76.9%、「地域の人との交流」では69.9%である。

全般的にみると、参加者は色々な人たちとよく交流していることがわかる。特に選手間の交流についてはよくしているといえる。また宿泊先の人との交流については、宿泊先の高い評価と相まってよくしているといえる。さらに、ボランティアや地域の人との交流もよくしていることが高い評価として出てきたものと思われる。

両群を比較すると、「選手間の交流」を除けばあまり差はみられない。A群の人は参加回数が多いために選手間の交流が盛んなのではなからうか。

④ ボランティア活動

表24 ボランティア活動 (%)

項目	A群	B群	全体
かなり積極的だった	65.8	66.3	66.2
積極的だった	26.3	29.7	28.8
どちらかといえば積極的だった	7.9	4.0	5.0
どちらでもない	0.0	0.0	0.0
消極的だった	0.0	0.0	0.0

表24はボランティアの人が積極的に活動していたかどうかをたずねたものである。全体では、「かなり積極的だった」66.2%と「積極的だった」28.8%を合わせると、95.0%とほとんどの人が高い評価を与えている。「スポーツイベントに関する研究—ボランティアの場合」⁵⁾のボランティアの大会に取り組む姿勢では、4割近くの人が消極的に取り組んでいるにも関わらず、選手からみた評価は高いことがわかる。

両群を比較すると、差はみられない。

(5) 大会への希望

表25は大会への希望をあらわしたものである。全体では、「フェリーの臨時便を増やしてほしい」が35.0%と最も多く、次いで「参加費用を軽減してほしい」25.2%、「開催する時期を考えてほしい」16.8%、「コースを変えてほしい」13.2%、「選手の人数を増やしてほしい」10.5%と続いている。

表25 大会への希望 (%)

項目	A群	B群	全体
フェリーの臨時便を増やしてほしい	35.0	35.0	35.0
参加費用を軽減してほしい	32.5	22.3	25.2
開催する時期を考えてほしい	17.5	16.5	16.8
コースを変えてほしい	12.5	13.6	13.2
選手の人数を増やしてほしい	12.5	9.7	10.5
選手の人数を減らしてほしい	2.5	3.9	3.5
参加賞を豪華にしてほしい	2.5	2.9	2.8
綿密な計画を立ててほしい	2.5	1.9	2.1
その他	20.0	6.8	10.5

(重答)

「フェリーの臨時便を増やしてほしい」が多いのは、中島町行きのフェリーの本数が少なく、時間もうまくあわないためにこのような要望が出てきたのであろう。また、A群においては「参加費用を軽減してほしい」という希望が多いのは、勝利志向のA群の者は他のトライアスロン大会に参加することが多いために経済的負担(参加料18,000円)を出来るだけ軽くするために要望が出てきたものと思われる。

(6) 今後の大会参加の有無

表26 今後の大会参加の有無 (%)

項目	A群	B群	全体
ぜひ参加したい	77.5	81.4	80.3
どちらかといえば参加したい	20.0	17.6	18.3
参加したくない	2.5	1.0	1.4

表26は今後の大会参加についてたずねたものである。全体では、「ぜひ参加したい」と回答した者は79.7%であり、約8割の人がぜひ参加したいとしている。「どちらかといえば参加したい」と回答した者を合わせるとほとんどの人が次回も参加したいと答えており、トライアスロン中島大会の人気の高さがわかる。

両群を比較すると、差はみられない。

IV. 結 論

- (1) 勝利志向の参加者(A群)は若い人が多く、トライアスロン歴も長く、よく練習する人が多い。一方、完走志向の参加者(B群)は中年の人も多く、トライアスロン歴は短く、それほど練習していない人が多い。
- (2) 勝利志向の参加者は、参加理由として自分の実力を試したい人が多く、良かったこととして「選手間

で仲間が増えた」「地域の人との交流が出来た」「タイムがのびた」ことをあげる人が多い。一方、完走志向の参加者は、参加理由としてトライアスロンへの興味をあげる人が多く、良かったこととして「完走できた」「トライアスロンが好きになった」ことをあげる人が多い。

- (3) 参加者の評価は、宿泊、地域活性化、交流、ボランティア活動のどれをとっても高く、田舎の暖かいふれ合いのあるトライアスロン中島大会は、参加者にとって、心地よいものであることが理解できる。
- (4) 大会への希望としては「フェリーの臨時便を増やして欲しい」「参加費用を軽減して欲しい」などがあるが、今後の大会参加についてはほとんどの人が参加したいと回答しており、この大会の人気の高さがわかる。

参考文献

- 1) 平野繁臣, 平野暁臣 「イベント富国論」 東急エージェンシー 1987
- 2) 野川春夫, 菊池秀夫, 山口泰雄, 長ヶ原誠 「スポーツイベントのマネージメントに関する研究(1)ーイベント参加者の視点からー」 鹿屋体育大学研究紀要 第6号 pp.57-67 1991
- 3) 萩裕美子, 國本明德, 松本耕二 「生涯スポーツイベントのマネージメントに関する研究(2)ートライアスロン参加者の大会参加経験から見たイベント評価ー」 鹿屋体育大学研究紀要 第12号 pp.27-37 1994
- 4) 萩裕美子, 國本明德, 野川春夫, 山口泰雄 「トライアスロン参加者のイベント評価に関する研究ータイプ別にみたイベント評価および参加継続意欲に影響をおよぼす要因についてー」 鹿屋体育大学学術研究紀要 第17号 pp.73-84 1997
- 5) 堺賢治 「スポーツイベントに関する研究ーボランティアの場合」 愛媛大学教育学部保健体育紀要 第1号 pp.83-88 1997

1) 平野繁臣, 平野暁臣 「イベント富国論」 東急エー